

科目名	授業形態	単位数	担当教員名
児童文化	演習	1	小林 伸雄・三木 麻子
<b>【授業のテーマ及び到達目標】</b> 音楽・語り・人形劇・紙芝居やテレビ・ラジオ・映画・ビデオ・絵本・雑誌など子どもの発達に関わる児童文化の意義を理解して、子どもの感情を豊かにし、表現力を伸ばすために役立てよう。 到達目標：児童文化材と保育との密接な関係を学び、それを積極的に保育に活かす姿勢を持てる。			
<b>【授業の概要】</b> 1、子どもの心を豊かにする方法をテキストを通じて学び、レポート作成を通して自ら考える。 2、季節の行事や伝統的な文化を学ぶとともに、新しい時代の文化を創造して行くという意識を持って実践的活動を行う。			
<b>【全体の授業計画・内容】</b>			
1. 子どもの生活—児童文化とは—			
2. 不易流行—伝統と創造—			
3. 子どもとあそび			
4. 児童文化と保育（絵本・紙芝居）			
5. 子どもと絵本			
6. 児童文化と保育（人形劇などシアタースタイルの児童文化財）			
7. 保育に生かせる絵本			
8. 児童文化と保育（おもちゃ）			
9. 子どもとことば			
10. 季節と遊び（凧揚げ）			
11. 季節行事と子どもの生活（春・夏）			
12. 季節と遊び（カルタづくり）			
13. 季節行事と子どもの生活（秋・冬）			
14. 季節と遊び（カルタとり）			
15. まとめ			
<b>【準備学習の内容】</b> 予習のあり方：テーマや課題に対する興味を持ち、実践の準備を怠らない。 学習のあり方：ディスカッションなどでは積極的な発言を心掛け、実践的活動では意欲的に関わる。 復習のあり方：疑問点を整理して、講義内容を実践の中に生かせるようにしよう。			
<b>【成績評価】</b> 授業内レポート 40% 授業内課題 40% 受講態度 20%			
<b>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】</b> レポートは、コメントや評価を記入して返却する。まとめの時間に作品の講評を行う。			
<b>【テキスト】</b> 川勝泰介他編『ことばと表現力を育む 児童文化』萌文書林			
<b>【参考文献】</b> 講義の中で紹介する。			